

## 重点施策8 人権文化の根づくまちづくりをめざし、あらゆる 差別、偏見を解消するための人権・同和教育の推進

### 【施策方針】

日本国憲法は、日本国民に総ての基本的人権の享有を認め、法の下に平等であることを保障している。この法の精神を人権・同和教育実践の中で養い、差別のない明るく住みよいまちづくりを推進するため、生涯学習の観点に立ち教育条件の整備と推進体制の充実、人権尊重の意識の高揚を図る啓発活動並びに人権に関する総合的な学習活動の推進に努め、人権啓発課とともに同和問題をはじめとするあらゆる人権問題解決に努める。

### 【実施状況】

#### (1) 主な施策・事業

- ① 市人権・同和教育研究大会の開催
- ② 人権問題学習講座の開催
- ③ 連合子ども会交流事業充実

#### (2) 施策・事業の実施状況

##### ① 市人権・同和教育研究大会の開催

毎年2月の第3土曜日に、市人権・同和教育研究大会が開催されている。午前中には、「就学前教育、社会教育」「小学校教育、行政、企業、福祉会館等」「中学校・高校教育」の3つの分科会が行われ、午後からは全体会として市民約1千名が参加して、小・中・高校生の代表による人権作文の発表、その後、公(講)演会が開催されている。25年度は、「差別の現実から深く学び、生活の中で差別を生み出す要因を明らかにし、差別の解消をめざし、地域ぐるみで、みんなの人権を確立しよう」のテーマで、愛媛県立川之石高校演劇部のみなさんによる「シロツメグサ」と題しての人権劇を行った。

##### ② 人権問題学習講座の開催

18年度までは、2地区公民館で4回ずつ計8回開催していたが、開催地区公民館の負担軽減と参加者の固定化を防ぐため、19年度から4地区公民館で2回ずつ計8回の開催に変更し、25年度は松蔭、川上、大島、喜須来の4地区公民館において行われた。地域の希望を取り入れ、地域の実情に応じた学習講座の開催を心がけるとともに多数の方に参加していただくことをめざして、外部の講師を迎えての講座や生涯学習課から社会教育指導員を派遣し実施した。

##### ③ 連合子ども会交流事業の充実

毎年、夏休みの初めに市連合子ども会交流会を開催している。これは、ふだん顔を合わせることの少ない他の地区の子ども同士が、子ども会を通して海水浴やゲームをすることで、仲間意識をはぐくみ、お互いを尊重し合い、人権感覚を磨くことができている。

なお、25年度参加者は、総員36名で、中央公民館保内別館でゲーム、昼食を食べ伊方町室鼻公園で水泳を行いました。ゲーム、水泳等で、子どもたちの交流を深めることができた。

### 【学識経験者意見】

- 八幡浜市人権・同和教育研究大会は、長年継続して開催され市民にも定着しており、学習の場として意義深いものがある。3分科会、全大会方式で一千名の多くの市民が参加し、研究大会が行われている。  
人権作文の発表会や25年度は「差別の現実から深く学び、生活の中で差別を生み出す要因を明らかにし、差別の解消をめざし、地域ぐるみで、みんなの人権を確立しよう」のテーマで川之石高校演劇部の皆さんによる人権劇「シロツメグサ」は、大変意義深いものだった。
- 地域での人権問題学習講座は、4地区公民館で行われた。地域の希望を取り入れ、地域の実情に応じた学習講座を開催したことは、地域の人権学習の向上につながったのではないかと考えている。
- 連合子ども交流会で、普段顔を合わせることのない地区の子ども同士が、子ども会を通して仲間意識をはぐくみ、お互いを尊重しあい、人権感覚を磨くことは、「人権文化の根付くまちづくり」を目指すうえで、今後も継続してほしい。

### 【自己評価】

- 市人権・同和教育研究大会については、毎回1,000名近くの市民が一同に会して行われる人権問題を解決するための有意義な大会と考えている。今年度は、「差別の現実から深く学び、生活の中で差別を生み出す要因を明らかにし、差別の解消をめざし、地域ぐるみで、みんなの人権を確立しよう」というテーマで川之石高校演劇部による人権劇「シロツメグサ」を行い、人権劇を通してあらためて人権意識を確認させられた。
- 地域での人権問題学習講座については、参加者の底辺拡大に力を注ぐとともに「さらなる一歩」を踏み出せるよう関係団体とともに、今後の講座の取り組み方を考え、より推進できるように努めたい。
- 連合子ども会交流会については、参加した子どもたちの元気な声、活動の様子を見ると運営にあたる事務局としても苦勞を忘れず。交流会の中で発表される子どもたちの感想文や代表者の挨拶には、子どもたちの成長を感じます。今後もこの事業を推進し継続していきたい。